

(公財) 中村元東方研究所 / 東方学院

東方だより

令和7年度前期号 (通号第46号)

〒101-0021
東京都千代田区外神田 2-17-2
延寿お茶の水ビル 4階
TEL : 03-3251-4081
FAX : 03-3251-4082
<http://www.toho.or.jp>
<https://www.toho-gakuin.org>

目次

理事長ご挨拶	1頁
理事・評議員ご紹介	2・3頁
芳名録	4頁
講師紹介・研究会員・研究員の声	5〜7頁
行事イベント報告・お知らせ	8・9頁
新刊紹介	2・3・4・8・9頁
事務局通信	10頁



日蓮上人と『立正安国論』

理事長 藤井教公



能登半島地震から一年半以上の年月が過ぎたが、奥能登地方は災害からまだ復旧していない。日本の四囲の国々を見渡してみても、水害や干魃などの自然災害が頻繁に起こっている。自然災害だけでなく、国家間の戦争があちこちで起こり、一向に止む気配がない。このような状況は、

まさに日蓮上人が『立正安国論』で描いた通りである。すなわち「旅客来りて嘆いて曰く、近年より近日に至るまで、天変・地天・飢饉・疫癘、遍く天下に満ち、広く地上に迸(はびこ)る。牛馬巷に斃れ、骸骨路(みち)に充てり。死を招くの輩(ともがら)、すでに大半に超え、これを悲しまざるの族(やから)、あえて一人もなし。」とあるのはとても昔のこととは思えない。

日蓮上人がこの書を著したのは、文応元年(一一六〇年)、日本社会が飢饉や疫病、天変地異に苦しんでいた時代である。当時、仏教はさまざまな宗派が乱立し、国家の精神的支柱としての機能を果たせず、上人はその原因が、正しい仏法、すなわち法華経を基盤とする仏教が国家の中心に据えられていないことが原因であると見抜いた。そして、日本国が本当に安らかに成り、民が幸福になるためには、正しい教えを立て(立正)、その上に国を築く(安国)ことが必要だと説いたのである。

『立正安国論』は、鎌倉幕府の執権・北条時頼に提出された諫言書である。形式は対話体で、質問者に対して日蓮上人が仏典に基づき答えていく。その核心は、世の災いの根本原因が仏法の誤りにあるという、仏教的因果観に基づいた指摘である。日蓮上人は「他宗の邪義を捨てて、法華経を根本に据えることで、初めて国は安穩となる」と強く主張し、それに従わなければ「他国侵逼難」すなわち外国からの侵略が起こると警告した。この予言は、その後の元寇によって現実のものとなったと日蓮上人自身が述べている。

ここに見られるのは、単なる宗教者の教義的忠誠ではなく、社会に対する鋭い批判と責任感である。日蓮上人は仏教を、個人の内面の平安にとどまらず、国家や社会全体の正義と秩序の基盤と捉えていた。そして、それが失われたときにどれほどの混乱と不幸が生まれるかを身をもって訴えたのである。

日蓮上人は後に佐渡で執筆した『開目抄』の中で、自身が「日本の柱とならん、日本の眼目とならん、日本の大船とならん、等とちかいし願、やぶるべからず」と法華経信仰に裏付けられた強烈な自負心と自己犠牲の精神とを披瀝している。

現代においても、自然災害や戦争、分断と混迷は止むことがない。テクノロジーが進歩し、経済が発展しても、人間の心のあり方が見失われてしまえば、社会全体は不安定になる。日蓮上人が訴えた「立正安国」という理念は、現代に生きる私たちに對して、いま一度、心と社会の基盤を見直せという呼びかけである。災害や争いに対して祈ることは大切である。しかし同時に、私たち自身の生き方を省みる契機とすることこそが、真の「安国」への道であろう。

理事・評議員ご紹介

我が正当化される現代世界

松丸壽雄 理事



このたび理事に就任させて頂きました。理事にいたる道は、突如として開けてきたというところ

です。理科系の学生でありましたが、二十代の後半に哲学を専門とするようになり... 西谷哲学を研究してまいりました。その後、京都大学文学部に助手として、そして獨協大学に助教として迎えられ、教授として定年退職しました。一年後、仏教伝道協会から声がかかり、ドイツ「恵光」日本文化センターに派遣されました。デュッセルドルフで七年半働いた時点で、突如、仏教伝道協会の常務理事にもなるようにとの命が下り、二〇二四年一〇月よりドイツと日本の間をほぼひと月ごとに往復しながら、日本とドイツの二つの役目を果たすようになっております。両国の人心もここ十年の間に大きな変容を、それとは自覚せず、被っているようです。その顕著な現れは、我(が)が甘受されるような所にあります。それ

だけに留まらず、我欲に曇らされている目で見える世界が真実の世界と、臆面もなく公言する人が跋扈する時代にもなってきました。ドイツや日本のみならず、世界政治の現状を見れば、上に述べたような時代の申し子たちを具に見いだせます。そのような人々は世界を戦へと追い立てています。

傍観を以てこのような混乱に甘んずること、これも我に引き摺られた行いなのかもしれません。昏迷した世界に足を踏み入れざるを得ない現代に生きる者にとって、ブツダの教は松明になるのではないかと思っております。このブツダの教を探究する中で、理科系であった私は中村元先生の初期仏教についての偉大な業績に出会い、感銘を受けました。ことに、パリあるいはサンスクリットにも慣れていない私にとっては、ダンマパダやスッタニパータの解釈と注釈は大いなる導きです。釈迦牟尼の元初に触れたいと志す者にとつては大きな助けになります。

このたび中村元先生の創設された中村元東方研究所の理事に就任させていただきました重みをひしと感じております。

まつまる ひさお 1945年東京生まれ。京都大学農学部卒、工学部研究生、文学部卒。京都大学博士(文学)。獨協大学名誉教授。ドイツ「恵光」日本文化センター所長。仏教伝道協会常務理事。

新刊案内

中村元 監修・訳／前田專學 監修／羽矢辰夫、矢島道彦、榎本文雄 編／藤本晃 訳

『原始仏典 IV 小部經典 第二卷』

『パーリ語三蔵』『経蔵』の現代語訳シリーズ「原始仏典」が遂に最後の部である「小部」の刊行。第2巻では成立が最も古くゴータマ・ブツダの肉声に近いとされる經典「スッタニパータ」と天界への転生事例集である「ヴィマーナヴァットウ」を収録。



単行本：496頁 ISBN-13：978-4-393-11365-3
出版社：春秋社 言語：日本語
出版年月日：2025年2月14日 定価：10,450円(税込)

仏教と文学

林康夫 評議員



NHKの大河ドラマで、二〇二四年に放映された「光る君へ」の中で紫式部と藤原道長の物語があった。これを契機に「源氏物語」

は多くの日本人の関心呼び起こし、ラジオやテレビでも源氏物語が多く語られるようになった。

源氏物語は確かにおよそ千年も前に書かれた物語文学として、その人物描写をはじめとする内容の濃さや、レベルの高さが注目され、世界の文学作品としても屈指の評価を得ている作品である。

以下は、岡崎冬彦氏、愛甲次郎氏等文語を愛する人たちが創設した「文語の苑」という団体(現理事長は土屋博氏)から出版された小冊子に掲載されている「高柳祐子先生」の小文からの引用なのだが、宗教と文学の関係について興味深い話が指摘されているのでご紹介したい。

平安時代末期、中流貴族の家に生まれ、鳥羽院の寵姫・美福門院に仕えた「美福門院加賀」なる女性がいた。後、藤原俊成に嫁し、かの有名な「藤原定家」を生んだ。

美福門院加賀は「源氏物語」と因縁浅からず、この人こそ「源氏供養」を行った最初の

人として知られているという。

「源氏供養」とはその名の示す通り「源氏物語」及び「紫式部」を供養する法要である。「紫式部」は「源氏物語」を創作したがゆえに、仏教の戒律である「不妄語戒」(「妄りに語らざる」/「虚言するなかれ」との戒め)を犯し、この故をもつて地獄に堕ちたという。そしてその亡霊を慰めるために源氏供養が始められたというのである。

源氏供養は後世には「能」の題目にも取り上げられているとのことであるが、その濫觴(事の始まり)は源氏物語をこよなく愛した美福門院加賀が最初に行つた「源氏供養」にあるという。

宗教的には地獄に堕とされるほどの罰を受けるような作品も文学としては世界的にも、歴史的にも高い評価を受けるものというのは興味深い。

なお、藤原俊成が美福門院加賀を悼んで読んだ歌が俊成歌集「長秋草」に掲載されているが、妻の源氏物語への愛着を想像させるものだという。また藤原定家の選になる「新古今和歌集」にも、俊成や定家の美福門院加賀を悼む歌も選定されており、この二人の偉大なる歌人の妻・母である美福門院加賀に対する格別な思いが想像されるのである。

はやし やすお

1942年神奈川県生まれ。東京大学法学部卒業。1966年通商産業省(現経済産業省)入省。基礎産業局長、通商政策局長、中小企業庁長官を歴任。退官後、三井物産代表取締役常務取締役、副社長執行役員兼欧州三井物産社長、同社顧問、日本貿易振興機構理事長を経て、2011年同機構顧問、現在に至る。

新 刊 案 内

吉村均著 『日本の仏教を読み直す 空海・道元・親鸞』



現在の日本では「仏教の教義」とか「〇〇宗の教義」ということがいわれますが、宗教＝教義に従うものというのは西洋の一神教をモデルとした宗教の捉え方で、仏教は本来、教義に従う教えではありませんでした。インドでは、仏教は医学的な発想の教えとみなされ、症状にあった薬を処方するようにその人に合わせて教えを説いたと言われていました(対機説法)。日本と同様密教の盛んなチベットの仏教が世界の関心を持たれている今、インドやチベットに残る伝統的な仏教理解や学習法を踏まえて、日本の高僧の教えを読み直し、高僧がたが何を説こうとしたかについて光を当てる試みです。

単行本：160頁
出版社：北樹出版
出版年月日：2025年8月5日

ISBN-13：978-4-7793-0786-7
言語：日本語
定価：2,200円(税込)

令和7年度芳名録 (五十音順・敬称略)

本年度も多くの皆様にご支援いただきました。心から御礼を申し上げるとともに、ご芳名を記します。

※令和7年9月18日受領分までを掲載しております。

維持会員

一心寺 宇杉真 川崎大師平間寺 川崎寿子 宗教法人清水寺 宗教法人高岩寺(へとげぬき地蔵)
史跡足利学校事務所 釈悟震 株式会社春秋社 浅草寺 高尾山薬王院 高橋堯英 高松孝行
中央学術研究所 千綿道人 塚田貫康 トヨタ自動車株式会社 成田山新勝寺
念法真教金剛寺(桶屋良祐) 菱徳実業株式会社 藤井教公 公益財団法人仏教伝道協会
法清寺(奈良修一) 前田專學 前田式子 水野善文 三友健容 学校法人武蔵野大学 吉田宏哲
渡邊信之

賛助会員

阿部敦子 粟野芳夫 飯高淑子 一島正真 入井善樹 遠藤康 大井玄 大熊善晴 太田正孝 大谷光真
小笠原隆元 岡田行弘 緒方康信 勝田康司 桂紹隆 加藤壯祐 菅野博史 観音院(来馬正行)
岸實瑩 北村彰宏 木村清孝 倉田治夫 小林守 齋藤明 齊之平伸一 櫻井瑞彦 佐藤行教
慈光院(戸田忠) 淳心会(日野紹運) 末木文美士 菅沼莊二郎 須佐知行 鈴木忠一 鈴木勇介
関戸堯海 宗教法人題経寺(柴又帝釈天) 高橋審也 田上太秀 武田浩学 多田孝文 立花ひろ子
田中勝洋 田中ケネス 田中進互 辻口正雄 戸田裕久 中谷信一 中村行明 西内之朗 西尾秀生
西岡祖秀 西宮寛 日本ヨーガ禅道院 野津一成 長谷川善永 畠中光亨 羽矢辰夫 一月正人
比良佳代子 平井恭子 笛木敬代 福重利夫 福留順子 藤井知興 法恩寺 寶幢院(原隆政)
堀江順司 前野直子 三木純子 三木保 水谷浩志 三石造形芸術院 宗教法人密蔵院(山口正純)
三友量順 宮元啓一 矢島道彦 山口泰司 好井瑞皖 和田壽弘

ご寄付

岡村光展 高橋堯英 比良竜虎 御園生妙子 三友健容 三宅善夫

東方学院創立五十周年記念事業ご芳志

観音院(来馬正行)

東方学院維持・発展のためのご寄付

岡村光展

新 刊 案 内

ケネス田中著／鴻野立明・菅原健訳

『目からウロコの仏教入門』



海外で話題の入門書(『Jewels: An Introduction to American Buddhism for Youth, Scouts, and the Young at Heart』『宝石—若者・スカウト・気持ち若い大人のためのアメリカ仏教入門』)の、待望の日本版が登場。「難しい」「古くさい」というイメージの仏教も、現代に巧みに適応しながら発展しているアメリカ仏教の視点で見ると、こんなに楽しくわかりやすい!

単行本: 296頁
出版社: 法蔵館
出版年月日: 2025年6月30日

ISBN-13: 978-4-8318-8802-0
言語: 日本語
定価: 2,200円(税込)

東方学院

講師ご紹介

八尾史講師

(オンライン)

敬語のない言語のブツダ

パーリ語初級を担当しております。一年の前半で文法を学び、後半で短めの経典を講読します。他言語を日本語に訳すときの悩みのひとつが敬語の問題です。パーリ語やサンスクリット語は、英語と同じで敬語がありません。主語がブツダでも弟子でも同じ動詞で kathyayati (話す) とか agacchati (来る) とか言うわけですが、その区別のないところをそのまま訳すと違和感があります。ブツダは話した、とか来た、とかいう文はどうも不穏当に見えて、日本語ではやはりブツダはお話しになったりおいでになったりしないとおさまりがよくありません。



しかし敬語という原文にない要素を加えることはどの程度許されるのでしょうか。いろいろな考

え方があると思いますが、「語り手が日本語で語るとしたらどう言うか考える」という平凡な方針がよいように思っています。おそらく敬語を使うのが自然でしょう。そうしないのはむしろ、「語り手がブツダに敬意を払わない」という原文にない要素を加えることになるでしょう。

会話文の敬語は人間関係や人物像に関わるのでさらに厄介です。敬語というより口調の問題ですが、ブツダは「だ・である体」でおおせになるのか、「ですます体」でしゃべってくださるのか。先学の訳もさまざまです。わたし自身はさきの方針の続きで、「語り手が日本語で語るとしたらブツダにどう言わせるか考える」(ブツダが日本語で語るとしたらどう言うかではなく)のが筋だと思うのですが、それを自分が十分読みとれて

いるか、おぼつかない思いを抱えています。

やお ふみ
東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学後、2011年に学位取得。2023年より東京大学インド哲学仏教学研究室准教授。研究分野はインド仏教における律蔵と経蔵。東方学院では2011年、2025年に「パーリ語初級」を担当。

中上淳貴講師

(関西校/オンライン)

ヒマラヤの幽玄世界から未来の可能性を開く

本年度より「チベット語入門」と「チベット仏典を読む」の講座を担当しています。私がチベット語と出会った原点は、大学時代に初めてインドを訪れた旅にあります。標高四、二〇〇メートルほどの小高い丘に登り、ヒマラヤの彼方から昇る朝日を眺めたとき、背後には白銀に輝く雪山がそびえ、周囲は一切の音を失った静寂に包まれていました。その神秘的な光景は、私に言葉では尽くせない深い感動を与え、以後の学びの道を決定づけた体験となりました。

その後三十年近くにわたり、インド、ネパール、ブータン、そしてチベットを訪れ、現地の言語や文化、仏教の実践に触れてきました。市場や寺院に響く祈りの声、生活に息づく仏教的世界観は、書物では得られぬ生きた知の形として、私の学びを支えてきました。時に長期に及ぶフィールドワー



クは、研究を深める大きな糧となっています。私は現在、日本政府が推進する「ムーンショットプロジェクト」

に研究員として携わり、伝統知を最新の科学的研究を通して社会に還元することを目指しています。瞑想アプリの開発や、東洋の伝統的瞑想を紹介するウェブサイトを制作などを通じ、マインドフルネスをはじめとする実践を古典テキストや現代日本語訳に基づいて紹介する試みを進めています。

本講座では、こうした現代社会との関わりを大切にしつつ、チベット語の文字や文法を基礎から学び、原典を読み解く喜びを共有しています。語学の習得は単なる技術ではなく、文化の深層を理解し、自己の内面を省察する契機ともなるでしょう。皆様と共に、新たな学びの扉を開くことが何よりの喜びとなっています。

なががみ あつき
1974年愛知県生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学。専門は人類学、仏教学。現在、立正大学法華経文化研究所研究員。東京大学先端科学技術センター客員研究員。一般社団法人こころの寺子屋協会代表理事。

東方学院
研究会員の声

高橋律子さん
(東京本校)

この四月から、釈悟震先生の講義「根本仏教のいざない―法句経から」を毎回楽しみに、通っています。



自分の老いと死を自覚する年齢になり、穏やかな死を迎えられるように準備をしています。

教の本を色々読み始めました。けれども同じ言葉の定義が本によって違っていたり、独学では理解できないことも多く、釈尊の教えの基本から学び整理したいと釈先生の講義を申し込みました。

講義では釈先生の丁寧な説明と豊富な知識でテキストの内容がどんどん膨らみ、毎回刺激をいただいて興味が尽きません。また、講義の中で紹介された中村元著「東洋人の思惟方法」をクラスの前輩からお借りして読み始めたら、目から鱗の面白さ。散らかった頭の中も整理されてきました。

「私はどこから来てどこに行くのか」長年放っておいた問いに、釈尊の教えを学びながら答えを求め、安心して死にたいと思います。



佐藤宗順さん
(東京本校/オンライン)

私は滋賀にある臨済宗のお寺の看護を十七年間ほどさせて頂いております。高校生の頃、ある著名な空手家の書いた本の中の「禅」の一字が妙に気になり関心を持ち始めたことが今生での私と禅との出会いであったように憶えています。そして大森曹玄老師の『参禅入門』を読みながら坐禅を始め、その関心を延長させて花園大学に進学し、縁あって得度させて頂き福岡の専門道場で坐禅を続けていきましたが、全く坐禅の仕方・方向性・全体の地図が分からず暗中模索しながら夜坐をしていたことを思い出します。三十代のころ関東でハタヨーガの実習を始め、その心身等への効果の顕著さを実感し、その後、玉光神社・IARJの本山博先生の下でその世界観・人間観と修道論等を学びながらクンダリーニヨーガを実習します。今は自分なりの行を実践する中で、月一回、山崎弁栄上人のお念仏の会でお念仏を行っています。これまで竹村牧男先生の御本を愛読して参りましたので、その御講義に参じたいというのは前々からの念願でした。今年度『大乘起信論』を読む」をオンライン受講させて頂き、竹村先生の詳しく細やかな御解説に感謝しつつ学ばせて頂いております。



研究員の声

平野克典 専任研究員

今春のコーチ滞在



僧院前にて

この春、南インドはケララ州のコーチを訪れた。院生時代から師事するインド人先生主催の研究集会に参加するため。禍後久方の訪印は兎角「対」で捉える滞在となった。

アラビア海に面する海域コーチは古くから東西海上交易の要衝として栄え、洋風建築物が目立つ街だ。キリスト教、ユダヤ人街、ヴァスコダガマ、シーフード、カタカリ舞踊、マラーヤラム語、ドラヴィダ系など、コーチを取り巻くキーワードから陸域北インドとの雰囲気の違いは察せられよう。

街中の巨大ショッピングモーターは、モール直通の高架鉄道や自家用車で来館する富裕層インド人家族で賑う。高級嗜好品を購入しモール内のスタバに涼しげに着席する地元民たちを横目に、貧しき単身外国人はモール外の暑き露店

で安価なチャイを立ち飲み、インドの経済発展ぶりに動揺する心を落ち着かせる。

さて、研究集会はインド最大の哲学者と称されるアーディヤンカラの生誕地に建立された僧院 Chimaya International Foundation で開催された。六時半のティータイム、三食のミールス(南インド式定食)、二十二時半の就寝が緩やかに遵守される、約二十人のインド人研究者との十五日間であった。人里離れた僧院にもWiFiは整備されていた。立ちながらの板書が辛いという高齢の先生に若き生徒が iPad の使い方を手ほどきする。古典サンスクリット哲学文献の解説を座りながら iPad に書き込んだ先生の文字が白板に無事映し出された。

今春のコーチ滞在は、陸海東西南北貧富都鄙老若新旧という役割満を彷彿させる実り多き時間であった。

吉村均 専任研究員

これまで学ぶことができたこと

チベットの先生方から伝統的なやり方で仏教を学ぶようになって三十年近くになります。当初、研究に活かそうという気はまったくありませんでした。ある時、必要があって日本の教えを読むと、すらすら、とまではいかないまでも、何を説こうとしているかわかる気がしました。

近代的な仏教理解と明治以前は、基本発想の部分で異なっています。当然のことですが、前近代の日本の高僧は近代的理解を知りません。明治以前は俱舎・唯識・中観など、インド由来の伝統仏教学が学ばれ、それを踏まえて教えが説かれていました。チベットには伝統的な学習法が、現在まで受け継がれています。

最近では日本でもテラワダ(南伝)の教



えが知られるようになりました。近代的な説明に置き換わった分、なぜ日本の伝統では大乘經典を認めるのか、阿羅漢ではなく仏陀の境地を目指すのか、輪廻の外のゴールと捉えるテラワダとは異なる北伝の涅槃理解とは？ そういったことが説明できなくなっています。

私が教えを受けてきた高僧の多くはこの世を離れられ、ご存命の方も日本を訪れることは困難です。新刊『日本の仏教を読み直す 空海・道元・親鸞(※)』(北樹出版)は、これまで学んできたことを踏まえ、日本の高僧方が何を説こうとされているのか、その教えと釈尊のさとりがどうつながっているかについて書きました。教えを惜しみなく授けていただいたご恩に少しでも報いることができれば、と願っています。

※事務局註…

3ページ下に詳細を掲載しています。

よしむら ひとし

1961年東京都生まれ。東京大学文学部卒業、同大学院人文科学研究科博士課程修了。日本学術振興会特別研究員(DC)を経て現職。著書に『日本人なら知っておきたい日本の伝統文化』『チベット仏教入門』『空海に学ぶ仏教入門』(ちくま新書)ほか。

行事 イベント 報告

新春研究発表会

於東京ガーデンパレス

令和7年2月25日(火)開催



恒例の新春研究発表会が、ホテル東京ガーデンパレス・高千穂の間で開催されました。今回の講師は、令和6年度アジア諸

国海外研究・調査助成の受給者である大木舞氏(京都大学人文学連携研究者)と、

第34回中村元東方学術賞受賞者

である山下博司

氏(東北大学名誉教授)です。

大木舞氏に

は、「ヒンドウ

は、「ヒンドウ



大木舞氏による講演

「教美術の諸相―古代・中世北インドにおける「あらゆる姿を持つ」ヴィシュヌ神像を中心に」と題し、ネパールでの調査研究の帰朝報告を行っていただきました。山下博司氏には「海外のヒンドウー教の現状―ジャカルタのヒンドウー寺院の事例から」と題し、山下氏が



山下博司博士

専門とする地域での現地調査のお話を伺いました。

研究発表会の後には懇談会が開催されましたが、その場を借りて、来馬正行師(武蔵野市観音院住職、東方学院講師)に、藤井教公理事長の代理として釈悟震常務理事より、ご寄付に対する感謝状の贈呈式が行われました。

講演会ならびに懇談会には、約五十名が参加しました。



左手前：釈悟震常務理事
右奥：来馬正行師



研究員総会

令和7年6月21日(土)開催

於身延別院



令和7年度研究員総会が身延別院(中央区小伝馬町)にて開催され、9名の専任研究員が出席しました。藤井教公総括研究員の

開会挨拶や研究員に対する事務連絡等が行われた後、後半では専任研究員による研究発表会が行われました。まず、インド哲学を専門とする平野克典研究員による



平野克典研究員

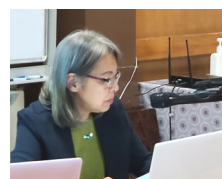
「ヴァイシェーシカ学派の分離(vibhāga)について」、次いでサンスクリット

文学を専門とする柴崎麻穂研究員

による「Kashmir Bṛhātkaṭha

による「Vikrama 王物語」

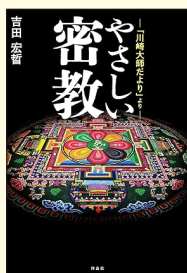
が発表され、出席研究員と活発な討議が行われました。



柴崎麻穂研究員

新刊案内

吉田宏著 『やさしい密教 ―「川崎大師だより」より―』



人生はなぜ四苦八苦なのか！ 弘法大師がえた、悟りの世界とその智慧とは？
南無大師遍照金剛、真言、大日如来、教相判釈、法身説法、即身成仏、十住心思想など、
わかりやすく教え説いた「川崎大師だより」の好評連載を書籍化。

単行本：256頁
出版社：作品社
出版年月日：2024年4月7日

ISBN-13：978-4-86793-067-0
言語：日本語
定価：2,640円(税込)

中村元 東方研究所 からの お知らせ

研究員の研究活動に ついて

現在、五名が日本学術振興会の「科学研究費（科研費）」の助成を受けて研究に従事しています。中村元東方研究所ホームページでも採択課題のテーマを公開しています。今年も、来年度からの科研費の申請をおこなっているところです。

また右ページでもお伝えしている所属の専任研究員の研究についても、科研費同様にホームページにおいて毎年それぞれの研究テーマを掲載しています。各研究員の研究テーマや業績もご確認いただければと思います。



二〇二六年度東方学院 受講の手引きは 十二月完成予定です

二〇二六年度・東方学院受講の手引きの冊子は十二月に完成予定です。

東方学院ホームページ(<https://www.toho-gakuin.org>)も十二月

半ばに来年度の情報を掲載します。

東方学院
ホームページ

【今後の行事】

★令和八（二〇二六）年

新春研究発表会

会員の方であればどなたでもご参加可能な研究発表会です。

【日時】令和八年二月二四日（火）

【会場】東京ガーデンパレス
(東京都文京区)

【講師】二名

※予定は変更することもございます。詳細は令和八年一月にお送りするご案内をご確認ください。

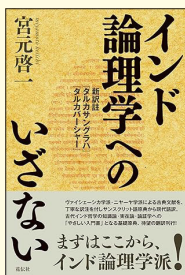
新 刊 案 内

宮元啓一著 『インド論理学へのいざない』

—新訳註『タルカサングラハ』『タルカバーシャー』—

ヴァイシェシカ学派・ニヤーヤ学派による古典文献を、丁寧な訳注を付しサンスクリット語原典から現代語訳。古代インド哲学の知識論・実在論・論証学への「やさしい入門書」となる基礎原典。

単行本：160頁
出版社：花伝社
出版年月日：2025年2月25日
ISBN-13：978-4-7634-2160-9
言語：日本語
定価：2,750円（税込）



宮元啓一著 『インド哲学・知覚論へのいざない』

—八つのサンスクリット語原典からの和訳と註解—

初期インド論理学派の文献にくわえ、ミーマーンサー学派パーッタ派の『マーナーメーヨーダヤ』と不二元論ヴェーダーンタ学派の『ヴェーダーンタ・パリバーシャー』を翻訳・解説。「思考」に重きをおく西洋哲学とは一線を画す、「知覚」のインド哲学、その核心に触れる！

単行本：144頁
出版社：花伝社
出版年月日：2025年4月25日
ISBN-13：978-4-7634-2168-5
言語：日本語
定価：2,750円（税込）



事務局通信

【編集部より】新刊案内は、東方関係者の著作を、毎回何冊かの候補を挙げてから紙面に載せています。今回はその候補が多く、悩みながら掲載する本を選びました。仏教やインド哲学の書籍の出版は喜ばしく、今回載せられなかった著作は次回の「東方だより」でご紹介したいと思っています。東方だよりは、読者の皆様からのご意見・ご要望をいただき、よりよい誌面にしていく所存です。本誌に関するご希望がありましたらお便り、メール等（宛名面に「東方だより編集部宛」とご記入願います）にて承っております。

当研究所の活動にご賛同下さる皆様へお願い

公益財団法人中村元東方研究所は、創立者中村元の理想を実現するため活動する非営利の文化事業財団であり、その運営はご理解ご協力いただける皆様からのご寄付により成り立っています。当研究所では各種会員を設定して、活動趣旨にご賛同いただける皆さまの積極的なご支援をお願いしております。

(1) 一般寄付

一般寄付は会費と異なり、金額や期限等を設定せずに、随時受け付けさせていただいております。お寄せいただいた寄付金は、当法人が取り組んでいるさまざまな活動に広く活用させていただきます。

(2) 継続ご支援（維持会員・賛助会員）

当法人の活動に賛同し、継続的に支援して下さる会員も随時募集しています。

・維持会費：一口 年 50,000 円

・賛助会費：一口 年 10,000 円

※上記いずれかをお選びいただき、出来れば複数口でご支援賜れば幸いです。

(3) 普通会員：年会費 7,000 円

普通会員にも、維持・賛助両会員と同じく、定期刊行物『東方』の他、催し物、会合等のご案内をお送りいたしますが、年会費に税の優遇措置は適用されません。

【所得税の免税について】

当法人は内閣府の認定を受けた「公益財団法人」であり、さらに、「税額控除」対象法人の要件を満たす証明書を内閣府より受けておりますので、上記（1）（2）の一般ご寄付及び維持会賛助会の会費は、税制上の優遇措置を受けられます。確定申告時に、①「所得控除」②「税額控除」のいずれか減税効果の高い方を選択できます。

多くの場合、「税額控除」を選択されると所得税額が少なくなり有利となります。一方、所得税率の高い方は、「所得控除」を選ばれると還付額が大きくなる場合もあります。確定申告の際には最寄りの税務署にご相談ください。

公式ホームページのご案内

東方研究所及び東方学院の公式ホームページでは、さまざまな情報が随時更新されております。是非ご覧下さい。

ホームページ URL : <http://www.toho.or.jp>

(スマートフォン対応)

中村元東方研究所

検索

- ▶ 当研究所の目的・理念・あゆみ
- ▶ 中村元博士の略歴・著作文献目録
- ▶ 専任研究員紹介、書籍案内

東方学院専用ホームページ URL :

<https://www.toho-gakuin.org>

(スマートフォン対応)

東方学院

検索

- ▶ 東方学院の開講科目や講師の紹介、開講日などをご案内しております。

東方だより 令和7年度前期号（通号第46号）

【編集 / 発行】公益財団法人中村元東方研究所 事務局

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-17-2 延寿お茶の水ビル 4 階

令和7年10月10日発行

編集責任者：釈 悟震

TEL : 03-3251-4081 FAX : 03-3251-4082